

一年で一番冷え込む季節になりました。どうしても外出する機会が少なくなり、運動不足になりがちです。

自宅にいてもラジオ体操や、テレビ体操といった手軽な運動を習慣にして、少しでも体を動かしましょう！

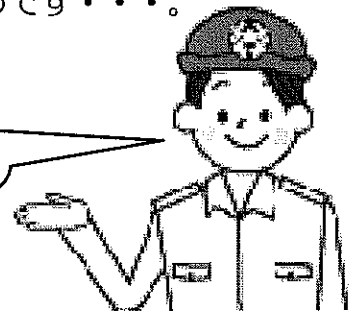


高齢者の自動車運転事故を防ぐには・・・

高齢者が運転して起きた、痛ましい事故が増えています。高齢者の運転事故を防ぐにはどうしたらよいのでしょうか。

平成26年度の死亡事故3,639件の内、65歳以上が起こした事故は957件と約26%です。免許を保有する高齢者は10年前の2倍近くに増えていますので、件数が増えているのはある意味当然なのですが、高齢者の交通事故の多くには共通する原因があるようです・・・。

高齢者の事故原因はどんなものが多いのでしょうか？

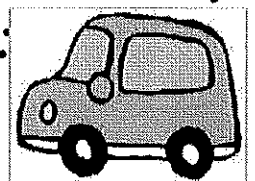


その1 運転操作の不適

ブレーキとアクセルを踏み間違える、ハンドルを切れないといった運転操作不適が多くなっています。

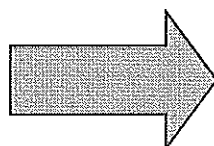
その2 一時停止違反

停止線の見落としなど一時停止違反による事故が多くなっています。



年齢を重ねると、運転に必要なとっさの動作や、複雑な動作がスムーズに出来にくくなってきます。さらに、記憶力や集中力、位置関係を把握するといった認知機能が低下すると、場所が分からなくなる、同時に2つのことが出来なくなる、注意力がなくなるといったことが起きてくる可能性があります。

高齢者の事故原因



認知機能 低下

身体の機能 低下

そこで75歳以上の方が運転免許を更新する際には、認知機能検査を必ず受けることになっています。

この検査では ◆認知機能が低下しているおそれがある ◆認知機能が少し低下しているおそれがある ◆認知機能低下のおそれがない という3段階に分けられるのですが、検査後、それぞれが半年以内に事故を起こした件数をみると、**認知機能が低下しているおそれのある人に事故が多い** ことが分かりました。

昨年6月、改正道路交通法が成立、**認知機能が低下しているおそれのある人はそのまま免許を更新せず医師の診断を義務付けられました**。2年以内に施行される予定です。

施行後、75歳以上の方は 医師から認知症ではないと診断されれば免許を更新できますが、認知症と診断されると免許は取り消されます。

75歳未満で認知機能の低下がみられる人の中には、自ら警察に相談し、免許を自主返納する人もいらっしゃるようです。しかし、認知機能の低下は本人に自覚がない場合もありますから、家族や周囲の人が気づいて、危険な場合には運転をやめるよう促すことも大切です。

★運転時に分かる認知症の兆候

1. センターラインをはみだす。
2. ブレーキ操作が遅くなる。
3. 車間距離が短くなる。

しかし・・・運転を控えてもらいたいと思っても、それが出来ないという事情がある人も多く、警視庁が75歳以上で運転をしている高齢者の家族に行ったアンケートでは、1/3の人が運転をやめてほしいと答えたのに対し、危険でも移動手段がないので運転はやむを得ないという人は2/3にのぼりました。

高齢者による事故を防ぐためにも、マイカーを手放せるような環境や身近な公共交通ネットワークを地域に作っていくことが必要です。

車の運転は事故を起こせば自分も危険ですし、相手を傷つけることもあります。家族や周囲の人を悲しませることにもなります。高齢者による事故を防ぐために何が出来るのか、いざとなったら運転をやめることも含めて身近な問題として考えてみましょう。

